

岩井臨海学校の今後のあり方について(検討状況)

1 現状

岩井臨海学校は、昭和23年から始まり、児童の海浜における自然体験や、宿泊による人間関係の育成などを目的として開催してきた。平成24年度校外学習のあり方検討委員会においても検討を行い、その結果を踏まえ、6年間実施してきたところである。

しかし、岩井臨海学校については、宿泊施設等に課題が生じたため、今後のあり方について検討を行っている。

2 課題

- ・利用している3つの民宿のうち、最大収容人数の民宿から、令和元年度をもって受入れ辞退の申し出があった。
- ・東京2020オリンピック・パラリンピックの競技大会と開催期間が重なるため、「子ども競技観戦」との日程調整が困難である。
- ・近年の環境変化の影響で、この時期の実施について、児童の安全確保が難しい。
- ・東京2020オリンピック・パラリンピックの競技大会期間中のため、バスの確保が困難である。

3 検討の経過

平成30年6月15日に教育委員会事務局と小学校長代表者とあり方検討会を実施し、平成31年3月26日まで4回の検討を重ねた。

4 今後の予定

学校、PTAの意見を総合的に勘案し、令和元年9月の教育委員会に報告する。その後、9月に議会報告を行う。

また、代替事業として、連携自治体との自然体験事業等の実施について検討する。

魚沼移動教室・岩井臨海学校あり方検討会 検討結果

はじめに

文京区立学校においては、平成24年度の「校外学習のありかた検討委員会」の審議結果報告に基づき、平成25年度から現在の各種校外学習を実施してきた。

しかしながら、この6年間に、区立小学校の児童数の増加等、校外学習をとりまく状況に変化が生じるとともに、運営上の課題も浮き彫りになってきた。

とりわけ、小学校第6学年において実施している魚沼移動教室及び岩井臨海学校については、様々な課題により現状のまま継続することが困難な状況である。

そこで、教育委員会事務局及び区立小学校長会の代表者で「魚沼移動教室・岩井臨海学校あり方検討会」を組織し、2つの校外学習のあり方について改めて検討を行い、以下のとおり検討結果をまとめた。

1 魚沼移動教室（小学校第6学年）

（1）現状と課題

魚沼市と文京区は、災害時の応援や教育、文化等の発展等に相互に協力する「魚沼市と文京区との相互協力に関する協定」を締結するなど、交流を続けている。魚沼市は、越後三山をはじめとした大自然に囲まれ、都会では味わえない自然体験活動を行うことができる。また、日本有数の穀倉地帯で冬は豪雪地域でもあるため、米作り、雪国の生活の工夫や知恵、文化、歴史等を直接学ぶことができ、社会科の学習、食育の面でも効果をあげている。さらに、国立公園尾瀬へ日帰りで行くことが可能なことから、プログラムに尾瀬環境学習を加え、日程を従前より1泊増やして移動教室を実施してきた。

一方で、尾瀬環境学習により全体の移動距離や移動時間が長くなり、天候や気温にも大きく左右されることから、児童には体力的に厳しい状況となっている。また、宿泊施設が市街地から遠く離れているため、急病や災害等の緊急時の対応に不安が残る。さらに、近年の児童数増加により、2020年には宿泊室の不足が見込まれていることや、学習指導要領の改訂に伴い標準授業時数が増え、授業時数の確保が求められている。

（2）今後の方向

魚沼市は、6年間にわたり小学校の移動教室を受け入れてきた実績と新規プログラムの開発体制が構築されており、安定的な移動教室の実施が期待できる。さらに、文京区との相互協力協定の締結により、文京区の児童にも自治体同士のつながりを体験させることができることから、移動教室は引き続き魚沼市で実施することが望ましい。

一方、平成29年に改訂された学習指導要領の趣旨（自然体験活動の充実）を踏まえつつ、児童の体力面や施設の課題等を考慮し、効果的なプログラムとするため、尾瀬ハイキングを外し、自然体験とともに歴史・文化体験を充実させた実施プログラムに変更することが適当である。同時に、日数は3泊4日から従前の2泊3日に日数を戻すことが望ましい。さらに、宿泊施設を市街地に近い湯之谷地区の宿舎に変更することで、児童数の増加による宿泊室の不足への対応が可能になる。

2 岩井臨海学校（小学校第6学年）

（1）現状と課題

岩井臨海学校は、文京区とは異なる海浜の自然の中で豊かな体験を積むことにより、心身を鍛えたり、感動する心を培ったり、豊かな人間関係を育む効果を上げてきた。その一方、学校の夏季休業中に教育課程外の事業として実施しているため、参加は任意となっており、近年では、東日本大震災の影響や各家庭の生活様式や夏季休業中の過ごし方の変化等により、平成20年度には約90%を超えていた参加率は、30年度には約70%台に下がってきている。

その一方で、近年は英語の教科化等により授業時数の確保が課題となっている中、一定の授業時数を割いて臨海学校に向けた指導・準備に充てているという現状があり、授業時数の確保にも影響している。

また、以前から岩井海岸周辺の民宿は廃業傾向であり、新たな宿泊施設が手配できないことから、宿泊室が飽和状態であり、今後の児童数増加により、宿泊室の不足が見込まれる状況である。岩井以外での実施も一定検討したが、新たに宿泊施設を確保することができない状況である。

さらに、近年の環境の変化に伴い、台風の発生時期や、海水浴場でのクラゲの出現が早期化傾向にあり、児童の安全確保が難しくなっているが、教育課程外の事業であることから、夏季休業中以外に実施することができない。

なお、平成32年度は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催期間と重なるため、競技大会の「子ども競技観戦」等との日程の調整が困難である。また、バス需要のひっ迫のため、大会組織委員会から教育関連旅行の時期の調整等の協力依頼が行われている状況や、バス事業者から当該時期のバスの確保は保障できない旨伝えられていることを踏まえると、輸送手段の手配が困難になることが想定される。

（2）今後の方向

本区において長年継続してきた岩井臨海学校であるが、岩井海岸周辺の民宿の減少傾向、海を取り巻く自然環境の変化等を考慮すると、今後、従前通りに臨海学校を運営していくことは困難と考えられる。また、岩井以外の新たな場所

での実施も宿泊施設の確保の関係から非常に困難な状況であることから、小学校第6学年の臨海学校は、平成31年度の実施をもって廃止すべきである。ただし、自然体験機会の確保は文京区の子どもたちにとって大切であることから、何らかの形でそれらを補完する代替策を講じることが望ましい。また、小中学校9年間を通じた校外学習全体の中で自然体験の充実を検討していくという視点も必要である。

3 今後の校外学習の体系

平成32年度からの新体系			
学年	種類	宿泊地	日数
小学校4学年	自然体験教室	学校選択	日帰り
小学校5学年	移動教室	八ヶ岳	2泊3日
小学校6学年	移動教室	魚沼	2泊3日
中学校1学年	移動教室	八ヶ岳	2泊3日
中学校2学年			
中学校3学年	修学旅行	関西方面	2泊3日
特別支援学級	小学校(4学年以上)	八ヶ岳	2泊3日
	中学校(全学年)	八ヶ岳	2泊3日

4 魚沼移動教室・岩井臨海学校あり方検討会

氏名	所属	職名等
松本 絵美子	窪町小学校	小学校長会代表
田中 純一	小日向台町小学校	小学校長会代表
熱田 直道	学務課	課長
松原 修	教育指導課	課長
小松 史彦	学務課	係長
森 進一	教育指導課	統括指導主事